



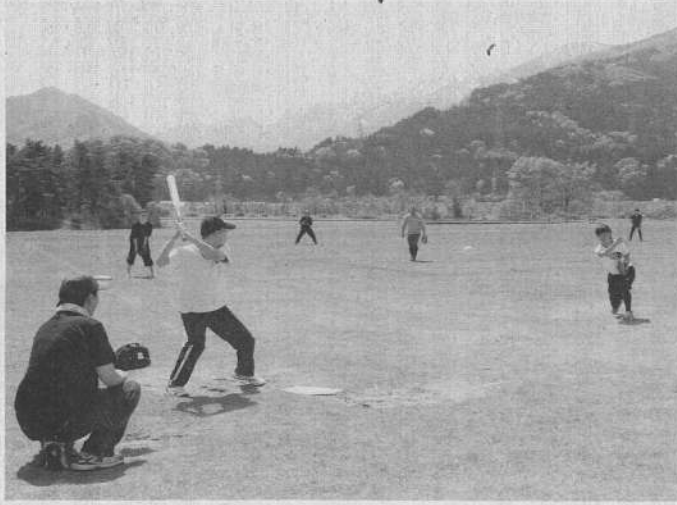
開会式で笑顔を見せる参加者たち
(20日、黒部市宇奈月町中ノ口で)

ソフトで交流 一人じゃない

黒部で「ニート甲子園」

様々な境遇 話す機会に

引きこもりや薬物依存からの脱却を目指す人たちが集う交流ソフトボール大会「ニート甲子園」が、黒部市宇奈月町中ノ口の中ノ口緑地公園で開かれた。
(吉武幸一郎)



青空の下、ソフトボールを楽しむ参加者たち(20日、黒部市宇奈月町中ノ口で)

大会は、合宿形式で自立を目指す人たちを支援する施設「宇奈月自立塾」が主催しているもので、15年前から行われている。参加者は元々、引きこもりや定職に就いていない人たちが多かったが、近年はアルコール依存症患者や児童養護施設の出身者など、様々な境遇の人たちにも広がってきた。

た。大会は20日に開かれ、県内に加え東京や石川からの計6団体が参加。5チームに分かれて総当たり戦を実施。参加した10〜60歳代の男女約100人は、試合で体を動かす喜びを味わうとともに、苦しみを抱える人

同士の交流を楽しんだ。試合中は「しっかり守るから打たれても大丈夫だよ」「ナイスボール」などと声をかけ合っていた。野沢友梨香さん(22)は「色々な立場の人と話せることは楽しいし、こういう機会が必要だと思う」と語っていた。

同塾の牟田光生代表(45)は「社会的なつながりが薄く、自分がマイノリティーだと感じている方も、様々な支援があることを大会を通じて知ってもらいたい。なおかつ宇奈月が思い出の場所になればうれしい」と話した。